

インターネット版

白夜

第6号

2022年3月

北海道スウェーデン協会

人類とコロナの果てしない戦いは、まだ終わりが見えない状況です。とは言え、社会の体制も私たちの心の持ち方も、当初とはずいぶん変化してきています。2月初めに、筆者の知人で、スウェーデン在住の日本人がコロナに感染したのですが、検査キットを使って自分で陰性を確認しておしめいただいたそうです。本当は、PCR検査で万全を期したかったのですが、政府が風邪と同じ扱いにすると発表して、無料で受けることができなくなったとかで断念したとか。

日本に比べると、ずいぶん大胆な対処をするスウェーデンならではの話ですが。

さて、少し間が空いてしまいましたが、「白夜」第6号をお届けします。今回は、昨年末に会員に加わってくださった橋田幸典さんにご執筆いただきました。楽しい旅行記を、美しい写真とともに楽しみください。

毎回のお願いです、会員の皆様からの原稿をお待ちしております。

何時でも結構ですので、事務局まで原稿をお寄せいただければ幸いです。word 文書（40字×40行）などで、1600～3200字程度を目安に（それより長くなっても構いません）、必要に応じて、写真も添付ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

憧れのスウェーデン—人旅

橋田幸典

はじめに

新入会員の橋田です。札幌市内で国際法務、企業法務、不動産法務などを取り扱う法律事務所を経営しております（橋田国際総合法律事務所。(<http://hashida-law.com>)）。

もともと北海道EU協会の会員だったところ、同会のワイン試飲パーティーの場で北海道スウェーデン協会の存在を知り、入会させていただきました。子供の頃から憧憬を頂いていた国であるスウェーデンと交流を図る会に携わることができ、大変嬉しく思っております。

スウェーデンへ憧れを抱いたきっかけ

少し昔話にお付き合いください。1976年生まれ、私が小学生の頃、世界的にハードロック、ヘヴィメタルが流行しておりました。当時の日本でも、今は亡き SANYO のラジカセのテレビCMで BON JOVI が、宝酒造「純」のCMで NELSON 兄弟が出演するなど、（今では想像しがたいことですが、）日本のお茶の間にも外国のハードロック・バンドが進出していた時代でした。

私も例にもれず、姉の影響でハードロックを聴き始めました。最初にはまったのが、今は亡きエドワード・ヴァン・ヘイレンのギターが印象的な VAN HALEN で、それから BON JOVI をはじめ、たくさんのハードロック・バンドを聴きましたが、ほとんどアメリカのバンドでした。

そうしたところ、ある日、ラジオから聴こえてきたスウェーデンのハードロック・バンド、EUROPE の曲に、それまで聴いてきたアメリカのバンドとは異なる感興を覚え、大変興味を持ちました。姉が持っていた唯一のスウェーデン人のCDである YNGWIE MALMSTEEN のアルバムも聴いてみましたが、叙情的で、よりドラマティックな独特な世界観を感じ、以降、EUROPE や YNGWIE MALMSTEEN をはじめ、TREAT、ALIEN など、スウェーデンのバンドにはまっていた

(ノルウェーの TNT や、デンマークの PRETTY MAIDS など愛好していました)。

このような経緯で、私は小学生頃からスウェーデンを中心とする北欧ハードロックを愛好しており、こんな素晴らしい音楽を次々生み出すスウェーデンという地はさぞ素晴らしい場所に違いない、いつか必ず訪れてみたいという思いを強くしておりました。

夢がかなったスウェーデン一人旅

そのチャンスは 2015 年の GW (ゴールデンウィーク) によくやってきました。

その GW では司法修習の同期の友人 2 人と、トルコ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、クロアチアを周遊したのですが、私は前乗りしてストックホルムを訪れ、そこからイスタンブールへ南下するという航空券を手配し、遂に憧れのスウェーデンを訪問することができました。



市役所から見た風景

空港から VOLVO 製の赤いシートのかっこいいバスに乗り、市内のホテルまでたどり着くと、私はとにかく嬉しくて、疲れも忘れるほどストックホルムの街を歩き回りました。スウェーデンの方々には皆さん長身で歩くスピードも早かった印象があります。

旅先の裁判所と桜

職業柄、旅行先では私は現地の裁判所や弁護士事務所を見る (チャンスがあれば中に入る)

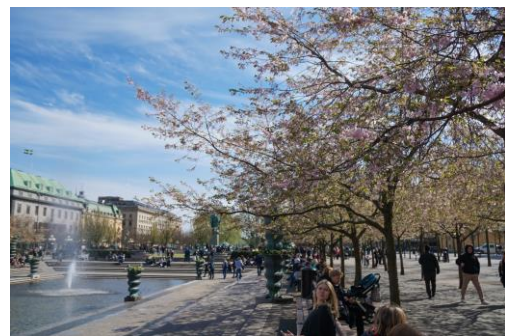
のを旅の楽しみの 1 つにしています。ストックホルム地方裁判所 (stockholms tingsrätt) はストックホルム中央駅からギリギリ徒歩圏内にありました。北欧らしいクラシックで朴訥とした裁判所の裏側に回ると、満開の桜が咲いており、古びた建物の鄙びた興趣にアクセントを与えていました。



裁判所の裏口

札幌同様ちょうどGWの時期が桜開花シーズンのような感じでした。

王立公園 (Kungsträdgården) でも日本から贈られたという桜が綺麗に咲いており、絵になる現地の美しい老若男女が静かに桜を眺めていました。思いがけず「#ストックホルムでお花見」という SNS 受けしそうな贅沢時間を過ごせました。現地の子供たちは大変人懐っこく、私がかメラを構えて桜を撮っていると、自分を撮ってほしいと言わんばかりに桜の木に上りだしたり、撮ってあげると大はしゃぎしたりと、1 時間あまりカメラマンとして子供たちと時間を過ごしました。



王立公園の桜

ストックホルムのおいしい話

「北欧のおいしい話 スウェーデンのカフェから、フィンランドの食卓まで」という本に載っていたエステルマルム市場も訪れてみました。スウェーデン語ばかりで相当ハードルが高かったのですが、確かパンやデザートを買い込むことに成功しました。

BSの旅番組「大人のヨーロッパの街歩き」で見たレストラン「Pelikan」で、番組で取り上げていたのと同じミートボールなどを食べましたが、お店の雰囲気もよく、どの料理もシンプルで美味しいものでした。

なお、ふらっと立ち入った「SUSHI」屋ではサーモンが大変美味しかったことだけ覚えていきます。



「Pelikan」のミートボール

最後に

旅行を終え、早朝ストックホルムを発つ私のために、ホテルのスタッフはおいしいサンドイッチを用意してくれ、アーランダ・エクスプレスで間違っただけのチケットを買ってしまった私に対し、電車のスタッフは、美しい英語で優しくチケット交換をしてくれるなど、最後までスウェーデンの人々は優しく、大変思い出深い旅となりました。

コロナ禍収束後には、ぜひ再訪したいと思っておりますし、弁護士業務においても、日本とスウェーデンの橋渡しをできるようなことができればと願っております。

北京オリンピックでのスウェーデン

事務局

2022年2月4日から20日までの17日間にわたって競技が行われた北京での冬のオリンピックでは、スウェーデンの選手たちが8つの金メダルを獲得しました。これは、前回平昌大会などの7個を上回り、冬季五輪での獲得数としては史上最多です。

中でも、スピードスケートのニルス・ファンデルプール選手は、5千メートルと1万メートルの二冠を達成し、スケート強国オランダの前に立ちはだかりました。特に、1万メートルでは、疲れの溜まる後半にもペースが全く落ちないどころか、むしろ加速して世界新記録を打ち立ててしまいました。

スウェーデンという国からは、時々、ライバルを全く寄せ付けない圧倒的な強さの選手が現れます。100分の1秒単位で競われる技術系の大回転競技において、4秒を超える異次元の大差をつけて優勝するなどして、「彼に次ぐ2位は優勝と同じ価値がある」とライバル選手たちに言わしめたW杯通算86勝のインゲマル・ステンマルク（アルペンスキー）、ツアー通算72勝を挙げて「歴代最強」と言われるアニカ・ソレンスタム（ゴルフ）などです。ファンデルプール選手も、将来、そういったレジェンドたちの仲間入りをする日は近いかもしれません。

同選手は、競技で目立つばかりでなく、期間中には、リンクの製氷がオランダに有利になるようにされているとクレームをつけ、帰国後には、人権問題を抱える中国での五輪開催を決めた国際オリンピック委員会（IOC）は「極めて無責任だ」と非難するなど、骨のあるところを見せています。

一方、伝統的に強いクロスカントリーの部門では、男子はメダル・ゼロとやや不振でした（72年の札幌オリンピックでの同国唯一の金メダ

ルは、男子距離選手でした）。女子では金メダルを含む複数のメダルを獲得しています。

日本ではロコソラーレの活躍が話題となったカーリング。スウェーデン・チームは、男子が金、女子が銅、混合ダブルスも銅と、全種目でメダルを獲得しました。

ただ、平昌では、女子が優勝するも予選で圧倒的な強さを示した男子が決勝戦で足をすくわれて銀メダル、今回の北京では、男子が優勝するも女子が準決勝でイギリスに惜敗し、二回続けてアベック優勝のチャンスを逃してしまいました（「アベック」なんて、今や死語かな。歳がばれてしまいます）。今回の女子イギリス戦では、第10エンドを終わったところで決着がつかず、延長戦にもつれこむ激闘。本当に、惜しかったです。けれど、もしも決勝戦がスウェーデン対ロコソラーレになっていたら、どうだったでしょう。見たかったような見たくなかったような。

ところで、カーリング女子では、今回、スウェーデンは予選を2位通過でしたが、日本はギリギリで予選通過。それも、予選の最終戦でスウェーデンが韓国を破ったことで、日本の予選通過が実現したそうです。そして、前回の平昌でもスウェーデンが最終戦で相手チームを破ったことで、日本の準決勝進出が決まったとか。だから、日本人は、スウェーデンに感謝しないとらないのです!?

スウェーデンがメダルを逃した中では、男子アイスホッケーが惜しかったです。準決勝でROCに1-2で惜敗。落胆したのか、3位決定戦ではスロバキアに完敗でした。

皆さんにとって、北京オリンピックで印象深かったことはなんですか？

筆者なら、ジャンプ混合の不可解な失格問題。涙にくれた高梨選手があまりにも可哀そう。審査責任者に怒り心頭です。

あとは、高木美帆選手の最後の金メダル。本命と言われながら何度も失敗して最後の最後

に金を取ったかつてのダン・ジャンセン選手を少しでも思い出してしまいました。

高梨選手や高木選手を始め、日本選手団のおそらく半分近くは北海道出身又は小林兄弟のように北海道関係の選手だと思われます。スウェーデンも北海道もウィンタースポーツで盛り上がる土地柄ということです。そういう絆も大切にしたいものです。

【後記】

おぞましいことが起こってしまいました。ロシアがウクライナを侵略したことです。

この事態を受けて、中立政策をとっていることで知られるスウェーデンも、国是を破って、ウクライナに武器を供与することを発表しました。他国への武器の供与は、隣国フィンランドがスターリンのソ連に攻め込まれたとき以来だそうです。プーチンは、そのスターリンにも匹敵する悪の独裁者として歴史に名前を刻まれることになりました。

しかし、後の歴史の評価はどうあれ、今、ウクライナの人たちは文字通り必死に戦っています。ロシア軍兵士の士気の低下が伝えられています。彼らが大量に投降して軍が自壊し、どちらにもこれ以上の死者が出ないようになることを切に望みます。

のどかな雰囲気の内容となっている本号を、このような緊迫した時期に出していいのか、若干の迷いもありましたが、平和の大切さを噛みしめながら読んでいただければと思って、予定通り発出いたします。

(2022年3月3日記)